

## 志の実現に向けて9

### はじめに

7月7日(金)・8日(土)に昇陽祭が行われます。準備も佳境を迎えています。教室や廊下から賑やかな声が聞こえてきます。

さて、私が小論文指導を行う際に、「みんなで考える」という表現を避けるよう指導しています。「みんなで考える」では責任を他者に転嫁しているように思えるからです。6月18日(日)の毎日新聞の「時代の風」の中で、日本総合研究所主席研究員 藻谷 浩介氏は、『「みんなで考える」日本』と題して、「みんなで考える」ことについて、以下のように指摘しています。

続々と現れるさまざまな社会課題をどう受け止め、どう対処するか。常に自問するのは、「その現実認識と対処策を『宇宙人』に説明したら納得するのか?」ということだ。「宇宙人」はもちろんたとえて「世の空気から自由で、事実関係や自分の利害得失を客観的に、ドライに把握できる存在」だと認識されたい。

そうした「宇宙人」の対極が、最近話題の、文章を生成する人工知能だろう。何かテーマを与えられると、インターネット空間にある膨大な文字情報を参照し、日本語の文章に要約してくれる。特に条件をつけない限り、言葉を世間で多用される語順と用法でつなぐので、すんなり読める。

だがその中身が、客観的で正しいとは限らない。仮に、この人工知能が中世にあれば「地球は平面」と答えただろう。1945年7月に運用されれば「一億玉砕の覚悟があれば日本は必ず勝つ」とし、「竹やりでB29を落とす方法」を教えてくれたに違いない。

つまるところ、この人工知能は、意見の取りまとめの天才だが、情報の真偽の判定はできない。客観と主観を区別できる「宇宙人」ではないのだ。だからこそ「自分で考える力はない」と指摘されている。ただ、「自分で考えない」のは人工知能だけだろうか。

解剖学者で東大名誉教授の養老孟司氏は、最近の筆者との対談で、「日本人は小さいときから、学校でも社会でも『みんなで考えましょう』と教育されてきました。でも、どうやって『みんなで考える』のでしょうか。動作ならみんなで合わせることはできますが、『考える』のは一人一人でしかできないこと。つまり『みんなで考える』とは、『自分では考えず、みんなの考えに合わせる』ことでしょう」と語った。

その通りだ。「みんなで考える」ことが、多数派の意見を自分の考えとして取り入れることならば、人工知能のやる作業と本質は同じである。そもそも日本の教育自体が真偽を判定する能力を鍛えず、「正解」とされるものや解法を暗記させるばかり。いや、日本だけではない。中国やロシアはもとより、世界中に「みんなで考える」人が充満しているのではないか。

さまざまな社会課題が個人に突き付けられる時代です。そんな時代だからこそ、「みんなで考える」のではなく、「自分で考える」ことが求められるのではないかと考えています。

### 「広島大学オープンキャンパス」について

「広島大学オープンキャンパス」が以下のように行われます。

日時 : 8月17日(木)・18日(金)

場所 : 東広島キャンパス(東広島市)、霞・東千田キャンパス(広島市)の各学部

申込 : 個人による事前申込制

留意点

- ・ 学部によって開催日時が異なります。
- ・ 申込可能な学部プログラムは1つです。
- ・ 定員を超過したプログラムについては、高校3年生、受験生を優先して抽選を行います。

なお、事前申込期間は、7月14日(金)正午～7月24日(月)正午です。専用の申込サイトから申し込むことになっています。

### 「国際卓越研究大学」について

先月末に、国が10兆円規模の基金を活用し、世界トップレベルの研究力などが期待される大学を支援する「国際卓越研究大学」について伝えられました。それによると、文部科学省は申請のあった10大学のうち、京都大学、東京大学、東北大学の3大学の現地視察を行うなどして、認定候補を絞り込み、秋ごろに結果を公表するそうです。

「国際卓越研究大学」は、大学の研究レベルを高め、技術革新を生み出すことで社会の課題解決につなげようと、国が10兆円規模の基金を活用して支援する大学で、文部科学省は数校を認定する計画です。審査は、海外の大学の学

長経験者などからなる有識者会議の場で行われています。7月には公募の申請順に、京都大学、東京大学、それに東北大学の3大学に現地視察を行って研究現場の状況を把握することにしています。

## 「国公立大学 共通テスト「情報Ⅰ」の設定状況」について

2025年度入試からに大学入学共通テストに教科「情報Ⅰ」が加わります。現段階の状況について河合塾から提供された資料を参考にまとめています。公表85大学のうち6教科8科目を課す前期日程の募集区分で集計したものです。

### ■「情報Ⅰ」の扱いを公表している大学

	国立大学	公立大学
必須	97%	44%
他教科との選択	3%	40%
利用しない	0.1%	16%

国立大学では、ほとんどの大学が「必須」としており、「選択」、「利用しない」とする大学はごく一部にとどまります。一方、公立大学では、「必須」と「選択」がほぼ半々に分かれています。公立大学では6教科8科目を課す大学は2割余りにとどまります。このため「情報Ⅰ」が選択科目扱いになっている大学が多くなっています。

### ■「情報Ⅰ」の配点比（全体）

	国立大学	公立大学	全体
配点比が低い（10%未満）	55%	45%	55%
10%（素点利用）	37%	55%	37%
配点比が高い（10%を上回る）	8%	0%	8%

比較をしやすくするために、対象については、6教科8科目を課す大学に絞り、「情報Ⅰ」の配点、1000点満点中100点（配点比10%）を基準に、これにより配点比が低い大学と高い大学で比較しています。

国立大学・公立大学とも配点比10%を超える募集区分は少数です。国立大学では配点比10%未満（他教科より扱いが「軽い」）が半数を超えます。公立大学では配点比10%（素点=特別扱いしない）が多数派で、国立大学と傾向が異なるように見えますが、6教科8科目を課すのは理系が多い影響であり、国立・公立大学間で傾向に大きな違いはありません。

### ■「情報Ⅰ」の配点比（学部系統別）

	文・人文	社会科学	教員養成	理	工	農	医療保健	その他
配点比が低い（10%未満）	79%	58%	49%	70%	46%	51%	58%	61%
10%（素点利用）	17%	29%	46%	26%	34%	35%	40%	30%
配点比が高い（10%を上回る）	4%	13%	5%	4%	20%	14%	2%	9%

学部系統別にみると、「文・人文」「理」学系で「情報Ⅰ」の配点比10%未満の大学は7割を占めます。「教員養成」系で配点比10%未満と10%（素点利用）の割合が拮抗しています。配点比10%を超える大学の割合が比較的高いのは、文系では「社会科学」、理系では「工」「農」学系です。

### ■「情報Ⅰ」の配点比（地区別）

	北海道	東北	関東甲信越	東海北陸	近畿	中国四国	九州
配点比が低い（10%未満）	89%	54%	40%	78%	39%	55%	49%
10%（素点利用）	11%	30%	48%	22%	36%	44%	46%
配点比が高い（10%を上回る）	0%	16%	12%	0%	25%	1%	5%

地区別にも特徴が出ています。北海道地区では配点比が低い大学（10%未満）が約9割を占めます。東海・北陸地区も8割近くが配点比の低い大学となっています。一方、近畿、九州地区では配点比10%未満と10%（素点利用）の割合が拮抗しています。また、関東・甲信越では10%（素点利用）の大学が半数近くを占めます。

### ■「情報Ⅰ」の配点比（国立難関10大学）

	北海道	東北	東京	東京工業	一橋	名古屋	京都	大阪	神戸	九州
配点比が低い（10%未満）	点数化 しない	100%	未公表	0%	未公表	100%	未公表	未公表	50%	74%
10%（素点利用）		0%		100%		0%			0%	17%
配点比が高い（10%を上回る）		0%		0%		0%			50%	9%

国立難関10大学では6校が「情報Ⅰ」の配点を公表しています。このうち北海道大学は「情報Ⅰ」の受験は必須ですが、得点化はしません。合否判定時に成績同点者の順位決定の際、「情報Ⅰ」の成績を活用するとしています。また、九州大学（経済-後）でも「情報Ⅰ」は必須ですが、合否判定には「情報Ⅰ」を除く上位2教科2科目の成績を利用するとしています。東京工業大学では配点比10%（素点利用）で利用、情報Ⅰを特別扱いしません。一方、東北大学、名古屋大学は「情報Ⅰ」の配点比を低くしました。神戸大学、九州大学では学部により配点比がわかりました。神戸大学（理-物理-前・後）では「情報Ⅰ」の配点は5点と極端に低くなっています。